

## ■ 市長から市民のみなさんへ

山陽小野田市長  
白井 巧文



### ■ 学校給食について

このところ、市内の保育園や小学校を回り、園児や児童と一緒に給食を食べています。宇部市にも出かけてみました。どこの学校でも、子どもたちが昼の給食を楽しみにしていて、和やかに本当においしそうに食べている様子を見ることができました。

6年生の教室では、隣の席の女子児童が「給食は栄養のバランスがええんよ」と教えてくれました。「ご飯が少し硬くない？」と聞くと、「よく噛んで、歯や口を鍛えるためなの」とも。どこも、ご飯・温食ともに、大人の私には、ややぬるめの感じを受けましたが、きっと子どもたちの年齢に合わせているのでしょう。

宇部市では建設中の給食センターも見学しました。

### ■ 大浜戦争捕虜収容所について

戦時中、小野田地区南部の「大浜」に戦争捕虜収容所がありましたが、先日、同所に収容されていた「戦争捕虜」のお二人（オーストラリア人、91歳と95歳）と付き添いの家族が本市を訪ねてこられました。支援団体の協力もあり、毎年のように「戦争捕虜」の遺族1組ずつの訪問を受けていましたが、被収容者（当時約400人）ご本人の訪問は初めてのことです。外務省の元戦争捕虜招聘事業で来日されたとか。映画「戦場に架ける橋」で有名な泰緬鉄道建設工事に従事し（映画では橋は爆破されたが、事実ではなく創作とのこと）、その後70日間かけて「大浜収容所」に送られ、約2年間、大浜炭鉱で働

かされたそうです。大変苦勞された当時の生活の様子を聞くにつけ、申し訳なさでいっぱいになり、市民を代表して心からお詫びを申し上げました。併せて、最近の姉妹都市モートンベイ市との交流の様子なども紹介しました。

何事も、被害者側と比較して、加害者側は事実を忘れがちですが、日本の国も国民も、先の大戦のことを決して忘れてはならないと思いました。

### ■ 山陽オート事業について（中間報告）

合併で山陽町から引き継いだ山陽オート事業でしたが、累積赤字額が大きく、山陽市民病院と並んで双子の赤字の一つといわれたものです。平成19年に民間企業に包括委託しました。当時の年間の事業収入は、約130億円あったものが、年で平均すると10億円ずつ落ち込み、平成24年度には80億円を割り込んでしまいました。

合併時には、特別会計上の収支不足分、いわゆる日動振（現在のJKA）への交付金（ギャンブルの違法性免除のために法定されたもの）、電算機のリース料などが約32億円ありましたが、委託後、約10億円減らしたものの、それでもまだ20億円を超える赤字が残っています。

現状の売上高では、今の委託業者との更新契約は難しくなっています。当面、事業継続に全力を尽くしていますが、本市の財政状況を一気に悪化させないため、しばらくは何かとご辛抱をお願いすることになるかもしれません。その節は、どうぞご協力ください。